

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 昭和女子大学附属昭和中学校・昭和高等学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒154-8533

E-mail info@awu.ac.jp

Website http://swu.ac.jp

幼児児童生徒数 男子 名 女子 1221 名 合計 1221 名

幼児・児童・生徒の年齢 歳～ 歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、主に次の4分野を基本テーマとして教育を行っています。

1. 地球規模の問題と国際システムの理解

貧困、飢餓、失業、識字、文化の理解、性差、人口問題など世界的な問題からテーマを選び、自分の地域や国、国際的な側面で調査を行っています。

2. 人権、民主主義の理解と推進

世界人権宣言や児童の権利に関する条約などを出発点に、人種差別、偏見、民主主義、相互の尊重、市民の責任、寛容と非暴力紛争などの人権問題について意識を広げています。

3. 異文化理解

海外の学生・生徒や保護者、自国民、移民集団、大使館や文化センターなどと連携しながら異なる習慣、伝統、価値観に対する理解を促しています。

4. 環境教育

自分たちの地域が直面する環境問題を検討し、解決手段を考察しながら、科学が将来に果たす役割を考えています。特に、「環境教育」、「国際理解教育」、「他者理解教育」の3つを重点ポイントとして、これまでの実績も踏まえて今後も活動を発展・強化させる考えです。

(2) 活動の詳細

①環境教育

- 各教科カリキュラムにおいて環境教育について積極的に取り入れた。またそれが、教科横断的にホリスティックに展開するよう心掛けた。
- 生徒会（保健部）を中心に、徹底的なゴミの分別と環境保全に努めた。
- 生徒の意識向上のため、環境標語を作成した。
- 第4回ESDアシストプロジェクトで購入した落ち葉や生ゴミを堆肥に変えるためのコンポスト「ロータリーコンポスター」を設置した。堆肥を利用した植物の生育ができてだけでなく、生徒の3Rに対しての意識向上にもつながった。
- 12月に実施した海外研修旅行において、訪問各国（ベトナム・オーストラリア）の環境問題について考え、ベトナムではマングローブ林再生のために、植樹を行った。
- 各種ボランティア清掃（校内・近隣・近隣公園等）に積極的に参加した。

②国際理解教育

- 中学生徒全員に対する長期英語教育プロジェクト（本校ではThe Boston Missionと呼んでいる）を実行した。特に中学2年生全員が経験する現地研修では、現地生徒との交流を通し異文化理解に努めた。
- 高校1年生を対象に行った（任意参加）プレ選択旅行のプログラムにおいては、各国（ベトナム・マレーシア・オーストラリア）の文化を体験し、その理解を深めた。
- 高校生を対象に行った（任意参加）英国短期留学プログラムにおいては、ホームステイを中心に、異文化理解を深め、国際的な視野を広げる機会となった。
- 本学園に併設されているブリティッシュスクールイン東京の生徒との交流機会が増加した。お互いの文化を知る機会として、お互いの国のアクティビティに参加するInter National Day、英語劇の共同開催等日常的に海外文化を感じる環境が整った。
- 留学生の受け入れを積極的に行った。（短期）

③他者理解教育

- 中1～高2まで、学年ごとに5日間の研修学寮を実施。ボランティア活動や集団生活を通して、他者を理解する力、コミュニケーション能力の向上に向け、研鑽した。
- 次の機関等との連携を通し、ボランティア活動や募金活動を行った。
 - ◇重症心身障害者施設「あけぼの学園」
 - ◇「ホスピア三軒茶屋」
 - ◇一般財団法人「民際センター」
 - ◇「日本肢体不自由児協会」
 - ◇「キャップの貯金箱推進ネットワーク」

④生徒への啓蒙

■個人研究「私の研究」では、研究テーマを全生徒がESDの内容に合致したのから設定。年間を通しての研究においても、常に各自が課題発見、それを文献調査や実地調査等で解決していくという学習過程が確立している。

■校内ESD大賞を設定。16作品が参加。

DVD『多摩川の環境を考える』（放送部作）が大賞に選ばれた。

① の写真



② の写真



③ の写真



④ の写真



2

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

<p>株式会社ユニクロが行っている”届けよう服のチカラ”プロジェクトに使用したパンフレット（生徒に呼びかけるための教材として使用）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・服のチカラ 世界を良い方向に変えていく 特集 難民の未来は、私たちの未来 ・この人はなぜ？いま、日本からできること（UNHCR）
--

- ① ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

<p>環境教育の推進として、次のような取り組みをしています。</p> <p>① 年間計画に基づいて各教科の授業で環境問題を取り上げ、学習しています。ESD カレンダーを作成して、各教科がバランスよく指導できることを心がけています。</p> <p>② 総合的な学習に位置づけられている「私の研究」という個人研究において、環境問題に関するテーマで取り組む生徒があり、その研究成果を発表する場があり、他の者にも還元されています。</p> <p>③ 総合的な学習に位置づけられている「昭和祭研究」というクラス単位の共同研究において、中等部時代に1回は環境問題を取り上げるようにしています。</p>
--

- ② 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

省エネルギー活動として、創立以来「無駄な照明は消す」という良い習慣が受け継がれていて、授業中、清掃中、休憩時間それぞれに必要な照明だけ点け、教室が空になる時には必ず消灯する役目を各クラスの週番が担っています。冷房は 26℃～28℃、暖房は 20℃～22℃を守り、CO₂削減に貢献しようと努力しています。省資源活動として、創立以来「紙の無駄遣いはしない」ことも徹底されており、両面印刷・縮小印刷は可能な限り行い、印刷の残りは反古紙として活用、また、封筒なども何回も再利用しています。廃棄物の適正処理として、生徒は、昼食・軽食に家庭から持参した飲食物のゴミは自宅に持ち帰ります。各教室には「紙ゴミ」の入れ物を置き、廊下には「紙類」「プラスチック」「缶ビン」「ペットボトル」「可燃物」専用の入れ物が設置され、ゴミの分別を徹底しています。リサイクルできるものは、業者を通じて行っています。特に、ペットボトルのふたは、別途回収し、福祉活動に役立てています。

- ③ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

毎年、保護者に学校評価アンケートを行っており、意識調査を行うことで課題を見つけ、改善を図っています。今年度行った学校評価アンケートでは、「ユネスコスクールの一員として本校がESD（持続発展教育）に取り組んでいることを知っている。」という質問に対して、知っていると答えた保護者は全体の40%、ほぼ知っていると答えた保護者は全体の44%で、合わせて84%でした。100%の保護者に理解してもらえるように、保護者会で本校がESD（持続発展教育）に取り組んでいること説明するなど、今後も工夫していきたいと考えています。

- ④ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

株式会社ユニクロが行っている”届けよう服のチカラ”プロジェクトに参加した際に、本校の附属の初等部、こども園にも協力して頂きました。また、同じユネスコ校である田園調布学園やもみの木保育園三軒字屋にも協力して頂きました。中高部が推進拠点として生徒が中心となり連絡を取り合い、連携することで多くの子供服を集めて、難民のもとに送ることができました。今後も連携して活動を続けていく予定です。

- ⑤ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

- ① 株式会社ユニクロが行っている”届けよう服のチカラ”プロジェクトに参加しました。探検家の南谷 真鈴先生を講師にお招きして講演会を行い、プロジェクトに参加する意義を教えていただき、全校で6000枚の子供服を集めて、難民のもとに届けることができました。
- ② 広島市の平和記念公園にある原爆の子の像のモデルになった佐々木 禎子の甥にあたる佐々木 祐滋先生を講師にお招きして講演会を行いました。折り鶴を折るプロジェクトに参加して、全校で1万羽の折り鶴を折ることができました。

- ⑥ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

同じユネスコ校である田園調布学園との交流会を2月に実施しました。お互いの学校の取り組みをそれぞれ発表して、今後、何が共同作業できるかを話し合いました。



- ⑦ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

環境美化活動として、朋友班による清掃活動では中高部の校舎内は勿論、幼稚部の園舎、キャンパス内の通路・植え込みなどを、生徒の手により清掃しています。厚生部委員会による地域の清掃ボランティアとして正門から三軒茶屋駅までの歩道の清掃を行い、近隣の方々から喜ばれています。全校的な取り組みとしての地域清掃ボランティアとして東京都の私学の地域別組織である第八支部の活動として、毎年秋に近隣地域のゴミ拾いを行っています。40年以上にわたって本校では毎年数百名の生徒が積極的に参加しています。

(3) 平成 30 年度の活動計画

環境教育に関しては、今後も各教科カリキュラムに積極的に取り入れたいと考えています。保健部を中心に、徹底したゴミの分別と環境保全に努めます。国際理解教育では、The Boston Mission を通して現地生徒との交流を通し異文化理解に努めたいと考えています。他者理解教育では、学年ごとに 5 日間の研修学寮を実施し、ボランティア活動や集団生活を通して、他者を理解する力、コミュニケーション能力の向上に向け、研鑽したいと考えています。生徒への啓蒙では、個人研究「私の研究」を通して常に各自が課題発見、それを文献調査や実地調査等で解決していくという学習過程を引き続き確立したいと考えています。株式会社ユニクロが行っている”届けよう服のチカラ “プロジェクトに関しては、例年協力しているので、引き続き参加したいと考えています。田園調布学園をはじめとする同じユネスコ校と積極的に交流会を行い、生徒の意識を高め、多くの共同作業を行いたいと思っています。